

## 令和2年度 キャリア教育委員会

私が中学生のころ、どんなキャリア教育を受けていたのかはつきりとは思い出せません。ぼんやりと思い出せるのは、世の中にはどんな職業があり、人々はどんな仕事をしているのか紹介してもらったり資料を読んだりしたこと。いくつかの質問に答えることで、自分がどんな職業（仕事）に向いているのかがわかる診断チャートをやってみて、なるほどと思ったことくらいでしょうか。職場体験もなく、地域の方と接することもなかったと思います。

各学校で行われているのは職場体験学習だけでなく、辰野町の「おしごとチャレンジ」、伊那市の「キャリアフェスティバル」、上伊那広域連合郷土愛プロジェクトの「産官学交流会」等々。これらを見ただけでも、キャリア教育もずいぶん様変わりしたものだと思います。

子どもたちはそこで「なぜ働くか」の答えを探すだけでなく、むしろそれよりも「そこで働く人の思い」や「自分たちの住む地域」に思いを寄せることが感想などからわかります。キャリア教育は仕事や仕事の意味探しではなく、働き方や生き方を学ぶ場になっていっていると感じます。そこで必要とされるのは職業に対する知識や適性云々といったものではなく、人とのふれあいだとそれらの活動から感じます。ふれあいの中でその人の人生や生き方、仕事への取り組み方、地域への思いなどを学んでいく。それこそがキャリア教育の大きな根幹かと思うようになりました。

そんな視点からも委員の先生方の実践をご覧いただければ幸いです。

○辰野中学校キャリア教育「新しい道を選ぶために」～三年間の学習を終えて～

辰野中学校 清都しのぶ 委員

○キャリアパスポートの導入と活用

東春近小学校 西村大気 委員

○伊那養護学校 高等部 キャリア教育

伊那養護学校 井坪賢児 委員

委員長 島尻英二 長谷中学校